

魚病診断結果について

湯浅 明彦・谷本 剛

水産研究所では、養殖水産動物の疾病の発生・伝播の防止及び被害の軽減を図るために定期的に養殖場を巡回することにより疾病の監視や疾病対策の指導を行っている。また、魚病相談室を設けて病魚の診断や対策指導を行っている。

魚病診断件数

平成14年4月から平成15年3月の期間に、水産研究所へ持ち込まれた養殖魚、種苗生産や中間育成中の病魚及び養殖場の巡回調査時に採取した検体の診断件数を表1に示した。海面養殖関係で35件、内水面関係で58件の診断を実施した。前年同期と比較すると、海面で6件増加したが、内水面で44件減少した。

表1 魚種別の月別診断件数

	魚種名	年 2002							2003							計
		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
海面	ブリ(0オ)					2		1		1		1				5
	ブリ(1オ)			2				1	1	1	1	1				7
	カンパチ				2	1		1								4
	ヒラメ		1	1				1						1		4
	トラフグ			6												6
	マダイ			1		1										3
	イシガキダイ						2									2
	イシダイ						1									1
	マアジ									1						1
	小計		1	10	3	7	1	5	2	2	1	2	0	1		35
内水面	アユ		8	5	3	1	2	3	1	2	3	6	2	6		42
	ウナギ		1										1	1		3
	マナギ		2	1	1	3			2	2				2		13
	小計		11	6	4	4	2	3	3	4	3	6	3	9		58

表2 魚種別月別の診断件数(海面養殖関係)

魚種名	病名	年 2002							2003							計
		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
ブリ(0オ)	連鎖球菌症				0			1		1		1				3
	類結節不明					1										1
	小計		0	0	0	2	0	1	0	1	0	1	0	0		5
ブリ(1オ)	連鎖球菌症			2			1	1	1	1	1					7
	ノルカジア										1					1
小計		0	2	0	0	1	1	1	1	2	0	0	0		8	
カンパチ	イリドウイルス症					1										1
	連鎖球菌症				1			1								2
	ヘテラキシン															0
小計		0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0		4	
ヒラメ	エドワジエラ症							1								1
	イクチオボド症			1												1
小計		0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0		2	
トラフグ	健康診断											1				1
	不明			1		1										2
小計		0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	
マダイ	不明			1												1
イシガキダイ	イリドウイルス病					2										2
イシダイ	イリドウイルス病					1										1
マアジ	ブリオ病								1							1
計		0	4	3	7	1	4	2	2	2	2	0	0		27	

魚病診断結果

魚種別の月別診断結果を表2～4に示した。

海面養殖関係では、ブリ属 連鎖球菌症の診断件数が最も多かった。また、7月に浅川湾の養殖魚にイリドウイルス病が発生しカンパチ、イシガキダイ、イシダイに被害がでた。

栽培漁業センターの親魚養成用に飼育していた体長40～60mmのヒラメ稚魚にウイルス性神経壊死症が発生した。脳周辺の発赤と体色の異常（頭部は正常だが体幹部が部分的に退色）を症状とし、継続的な死亡を示した。日本栽培

漁業協会が開発されたPCR法で検査した結果、原因ウイルスはRGタイプであることが明らかになった。

内水面養殖関係ではアユの診断件数が最も多く、その内冷水病及とその混合感染症が44%を占める。冷水病以外ではシュードモナス病と投薬に伴う菌交替症の水カビ病が見られた。ウナギ養殖では春に鰓弁充血症（病名としてウナギアデノウイルス症が提案されている）が発病し、同症状が終息する頃にパラコ口病と同病の原因菌である *Edwardsiella tarda* と性状が類似した細菌による感染症が発生し被害をもたらした。

表3 魚種別月別の診断件数（種苗生産・中間育成時）

魚種名	病名	年 2002										2003			計		
		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
ヒラメ	ウイルス性神経壊死症			3													3
	ガ腹部膨満症			1													1
	不明			2													2
	小計		0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		7
クルマエビ	ウイルス性急性血症							1									1
計		0	6	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1		8

表4 魚種別月別の診断件数（内水面養殖関係）

魚種名	病名	年 2002										2003			計		
		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
アユ	シュードモナス病			1	2					1							6
	シュードモナス病+冷水病		1				1	1									3
	シュードモナス病+ギロダクチルス症														1		1
	シュードモナス病+真菌性肉芽腫								1								1
	冷水病+水カビ病		3	3					2			2	4	1	4		19
	ビブリオ病		1									1					2
	内臓真菌症			1													1
	真菌性胃炎		1								1						2
	ボケ症									1							1
	不明		2		1		1								1		5
小計		8	5	3	1	2	3	1	3	3	3	6	2	6		43	
アマゴ	せっそう病		1		1												2
	内臓真菌症														1		1
不明													1			1	
小計		1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1		4	
ウナギ	鰓弁充血症		1		1					1							3
	鰓弁充血症+細菌感染症														2		2
	パラコ口病					2					1						3
	細菌感染症		1														1
	カラムナリス症+シュードダクチロギルス症									1							1
	健康診断				1		1										2
	不明										1						1
小計		2	1	1	3	0	0	2	2	0	0	0	0	2		13	
計		11	6	5	4	2	3	3	5	3	6	3	9			60	